

地域共生推進協議会【第5回】 議事録

令和5年12月19日(火) 18時半～20時

佐々町多世代包括支援センター 会議室

委員出席者

佐々町民生委員児童委員協議会	会長	吉永 浩樹
町内会長連絡協議会	会長	ミズタ ヒデタカ 水田 秀豪
北松浦医師会	かわむら内科院長	川村 純生
北松歯科医師会	かわむら歯科医院理事長	迎 文彦
(社) 佐々川福祉会		古川 薫
相談支援事業所さわかぜ支援センター		竹下 智美
長崎県社会福祉士会 権利擁護センターぱあとなあ長崎	社会福祉士	山野 清治
佐々町商工会	会長	森山 政幸
スクールカウンセラー		近藤 由香里
佐々町スポーツ推進員		マツオ ヤスヒロ 松尾 恭宏
佐々町教育委員会教育委員		ナカムラ タカヒロ 中村 尚広
株式会社 愛佳	代表取締役	シモガマ トヨヒロ 下釜 豊広
介護予防ボランティア 元気カフェぷらっと	代表	福田 修三
フリースペースなずな	代表	柳原 佳子
佐々町食生活改善推進連絡協議会	会長	小林 貞代
カブトガニを守る会	会長	ヨコオ 博宣 横尾 博宣
飛鸞ひまわり基金法律事務所	弁護士	小林 洋介
佐々町地域福祉計画策定委員会委員長		吉居 秀樹

事務局：開会

岩本委員：ぶくぶくイベントの件。コロナ禍でずっと人数制限をしていましたが、今年は人数制限をやめました。35組の親子連れがいらっしやっしたし、スタッフ・社協・ぷらっとさんにも御協力頂き、大変盛り上がる事ができた。頑張っている。

事務局：計画の構成と前回協議会からの変更点について説明。

吉居委員：個別計画は初出だが、総合計画が出来上がった後に作るものと思っていた。一体として策定と言われてきたので、どういう整理になるのか疑問。横串で町全体が繋がるような計画を創るはずではなかったのか？本総合計画は前回の地域福祉計画を引き継ぐものと認識。自分は前回計画策定の座長でもあったので、気になる。制度の隙間に落ちている地域課題をこそ重視するという理念は引き継がれていると思うが、個別計画の集合体であると、その理念が踏襲されているのか不安になる。前回計画の董襲は個別計画を見れば、粛々とやっていることが解るといっただけでは良くない。総合計画の中心に記載すべき。の隙間をどう埋めるのかという部分が重要であり、個別計画の集合だと、新たな課題には木を改めて一本ずつ植えていくようなこととなり、現在の態勢では対応が難しくなってしまうのではないか。個別の法定計画は、制度の隙間を埋めるという共通の理念に沿っていることが必要で、この理念は今後のPDCAも通じて踏襲されることが重要。

事務局：地域福祉計画でこれまで取り組んできた内容を踏まえ、策定した。これまで重点施策として掲げていた内容も、無くなるわけではない。P33に追記し対応する。

吉居委員：合冊した体裁は如何なものか、総合計画をしっかり議論し策定するのが協議会の役目だと思う。総合計画内に個別計画の取り扱いについて記載しておけば良い。個別計画の間を埋めるのが本計画ではない。そういう新たな作業で現場の負荷が増大しないようにすべき。協議会は総合計画を施策に反映させていくのが、今後も重要な役割だと思っている。そのためには、委員が本計画策定過程の協議会の議論の成果である基本方針と、個別の事業との関係を理解せねばならない。

事務局：コンサルの意見を得て、前回計画の取り扱いも含め、追記・編集対応する。協議会委員には来年度も引き続きお力をお借りしたい。

座長：第四章重点施策について、各担当者から説明をお願いします。

事務局：重点施策1～4について、資料説明。

大瀬委員：先ず社協が受け皿となって、つなぐBANKを佐々で運用するよう調整中。11月理事会で新年度事業に上げようか検討。母子・ひとり親世代支援は社協のミッションでもある。県へは補助金申請中。12月に懸念10世帯に配布予定、対象者選定は住民福祉課で行い、2月に30世帯に案内予定。4月からの事業に載せるべく調整中。

中村座長：誰一人取り残さないという覚悟は重い。平等と公平の両立は難しい。平等重視なら全員に等分になるとなるだろうが、本当に恵まれない世帯には重点的に支援すべきとも思う。つなぐバンクは、後者なのだとして理解しているが、本計画の「誰一人取り残さない」という考えは今後必要と思う。継続が重要な取組と思うが、補助金もだが持続可能な取組として、町内事業者の協力も検討できないか。

森山委員：商工会として支援する可能性はある。

小林委員：プロボノという公益活動を弁護士は行っている。無料のボランティア。事業者にもプロボノ活動を期待する。

中村座長：離婚後一定期間慰謝料や養育費を勝ち取れない一人親世帯があると聞いた。相談会のような機会があれば、救える方が増えると思う。小林委員にも相談に乗って欲しい。

柳原委員：「なずな」は、既に多世代の居場所となっている。母子家庭の子どもも多い。社協等他団体との連携を進めないと、対象者の数・幅が広がり対応が不可能な状態である。10月から水曜と金曜、佐々中学校にステップルームという、教室で勉強できない子ども達向けの部屋があり、そこに支援に行っ

おり、月～金でスタッフはフル稼働中。しかし、ステップルームに来ている中学生が、「なずな」にも来たくて寒いのに早朝からセンター前の公園で待っていたりする。行き場がない、家にも居れない。昼も食べれてない、そういう子供達をフォローする、ひとりひとりに寄り添うには、圧倒的にマンパワー不足。行政の支援が最も重要で不可欠。そもそも、公民館を毎日開放して誰でも来れるようにという発想があり、それが難しかったので、現在のなずなの形態でスタートした。各地区公民館で同じ活動をして、急増するニーズに対応すべきだ。ボランティアにも日当をちゃんと払わないと持続可能ではない。5-6年前からプラットフォーム整備に厚労省はようやく腰を上げた。文科省も教育支援センター整備の予算を拡充・前倒しすると聞いている。佐々町も是非この文科省の事業に手を挙げて欲しい。他所を見て動くのでは遅すぎる。率先して国の事業を取りに行く積極性を町に求める。

今道理事：行政支援は必要だと思う。集会所を居場所にして、福祉センターを補完することも検討する。現状は5-60万しかなずなに支援できてない。スタッフをどう揃え維持できるかが極めて重要。

中村座長：国の補助事業にはアンテナを高く張り、町が情報提供・申請の前面に立ち積極的に活用して欲しい。

吉居委員：国に申請を出すのは、役場では担当課が事業名を把握・特定し、本計画にも書き込むべき。

吉永委員：先程の個別計画の説明を聞いて、既に取り組んでくれているのだと思うが、柳原さんが指摘した事業・予算情報は、行政も得ているはずであり、是非書いて欲しい。

松尾委員：協議会の後に、分科会で具体の中身を話すべき。柳原委員の提案は、教育委員会も含めて話すべき計画策定と運用は、でき上ってからが始まりと認識している。

吉居委員：個別計画までパブコメに掛けると言われたので、通常のパブコメであればこれで完成形ということになってしまうので心配しただけだ。松尾委員の言われることに同意する。

中村座長：国の補助事業も含め、本計画の基本方針や重点事業を柱にし、官民が役割分担していく必要。

事務局：先ほどの吉居先生の御指摘ですが、P46 ページに、教育支援センターとして、佐世保市や松浦市でも活動している組織があるということで、本町においても同様の活動に組み、体制強化を支援することが可能ですという文面の後に、住民福祉課と世代包括支援センターが教育委員会と連携し、国厚労省・文科省の補助事業や施策について、積極的な活用と申請を行いますとさせては頂いております。ただ、松尾委員が言われたように、今後の事業展開の中で詳しくお話できる場を持ちたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

近藤委員：民間と連携した学習アプリ利用は、事業にも挙げてもらっており進めて頂きたい。

中村座長：つなぐ BANK も国際大学と協力して学習支援行っている。

迎委員：私ができることは、口腔の健康について相談に乗ることで、イベントと絡めていく。私個人は是非やりたいが、歯科医師会としては未だ合意形成できてない。松浦では医師会で予算付けてできているので、理事会・総会を経る必要があり、これからだ。県の医師会から歯ブラシの補助が出せるようなので、活用したい。

中村座長：久山町の取組みとサービスは興味深い。佐々町ならではの疾病として肝臓病があると聞いている。

川村委員：産業医をしており、企業での講演後個別に健康相談をしていた。特徴的疾患について、どう対策を立てたらよいか講演できる。町の健診データは長大総合診療科が収集管理しており、分析もやっておられるはずだ。前田教授にお願いし健康診断結果について解説してもらおう機会から始めたらどうか。自分たちのデータなのだから、フィードバックを求めても良いだろう。イベントについては、県医師会からの補助も活用し、参加者に歯ブラシを配ることも考え得る。久山町のようにアプリ開発を医師会が主体となって動けるかと言うと、ハードルは高い気がする。

中村座長：1万4千人という人口規模だからこそ、健診受診比率をもっと上げてデータからフィードバック

クして健康づくりに活かす方法の実証ができるのではないかと。当社も歩るこーでアプリの協力店登録をしたが、ほとんど値引きという認識でないといけな。健康づくり通信に掲載してもらい、PR効果はある。

森山委員：福祉分野に商工会はあまり関係ないと思っていたが、まちづくりに係る計画であり積極的にかかわるべきと考えている。棚に飾るだけの計画にならないよう、具体的に推進していくためには、皆が共通の指針を持つこと大事。基本理念と基本方針に立ち返り、相応しい事業・施策なのかは常に検証していく必要がある。そういった検証も含め、官民協力して実行（運用）していける計画にしていきたい、商工会としても協力します。具体事業になると、歩こーで協力店舗登録も、個店にメリットが少なくても、地域振興自体が商工会の目的なので推進する。ウォーキングイベントも含め、協力可能。具体事業を来年度以降しっかり議論して、進捗チェックして進めていけるようにして欲しい。

中村座長：ホームページに店舗位置が示され、宣伝効果は実際にあった。健康まつりを機会に、参加者で競って賞品を競うようになれば。健康相談・歯科相談・離婚相談も一緒になるイベントになったら良い。最後に5章の計画の推進について事務局から説明して下さい。

事務局：資料説明。

中村座長：歩こーでDL数のKPIはかなりアグレッシブだが、目標として掲げるには良い。

水田委員：佐々町は福祉が充実しているという、外部からの評価が高い。他市からひとり親の転入世帯の公営住宅入居申請が多い、それで良い。しかし、住めるところが少ない。空き家は有るが、家賃が佐々は高い、大家が少し下げれば良い。

中村座長：移住促進の補助は、他市も競ってやっている。引っ越し補助だけでなく家賃補助も必要。

中村座長：是非やるべきだ。議会に、この協議会の意見としてぶつけてみては。不登校が多く、転居したら二次被害となったら大変だ。なずなやステップスクールが重要な条件になるはずだ。

水田委員：ふるさと納税基金は使えないのか？納税返礼品の開発を是非、商工会には頑張ってもらいたい。

中村座長：納税額は大きく化け得る。官民一体でやりましょう。

岩本委員：佐々町内にたくさんの障がい者施設があることを、さぎまる市場で初めて知ることができた遊べる佐々川になっていないのは、悲しい。

中村座長：「佐々川で遊ばない」と夏休みのプリントに書いてある。

横尾委員：佐々川で活動できないのは、大変もったいない。今年ほうなぎ塚しかできなかったが、イベントは成功した。佐々川で遊びたいとなったとき、具体的な問題としては雑草があまりにも多く、また川が浅くなっている。土砂が入り込んで膝ぐらいしかなく、飛び込める場所が無い。浚渫には億単位の金が必要だが、草刈りはイベント化すると上手く人が集まるかも思っているところ。

中村座長：海岸でスポごみイベントをやっているが、草刈りは安全に気を付けてやる必要。川で遊ぶことを禁じているのは、子どもに目が届かないところが多いからだ。子供が大好きな高齢者は多いので、協力を求めてはどうか。

松尾委員：学童農園で10年キャンプ活動を主催しており、佐々川での遊びもプログラムに加えたい。横尾さんと知り合えたので、キャンプ+川遊びを企画したい。その他でも、協議会メンバーが協力し合うことで、新たな展開が開けるはず。

中村座長：それこそが、本協議会の目的だったはず。みんなで協力してやっていこうというスタートライン。最後に介護保険料について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料説明。

福田委員：佐々町は他市町村より認定率は低かった。物価高騰の折り、年金生活者にとって保険料値上げはきつい。人口減少でインフラ維持のコストが、上下水道料等使用料の上昇圧力にもなっており、住民の負担率（感）は増大している。値上げ以外できる方法はないのか、行政の努力等。

大瀬委員：P299 のグラフで、施設系サービスが約4千万減少し、居住系が逆に4千万増加しているが、これは居住系サービスがどこかできるという意味か？

事務局：施設数の増加は無い見込み。掲載図は実績値ではなく、第8期計画時の推計値である。ここ数年、在宅・居住系サービス需要は増加傾向にはある。

中村座長：福田委員の意見は重い。受け止めて住民の方々皆に根拠や考え方を示す必要がある。

吉居委員：パブコメに掛ける計画案は、どれになるのか？パブコメにはどこまで出すのか？個別計画も含めて掛ける必要が本当にあるのか、良く考え直してほしい。

事務局：パブコメには全部かける予定。今後のスケジュールについて説明、閉会。